ケ

仮 処 分 決 定

当 事 者　　別紙当事者目録記載のとおり

上記当事者間の平成25年(ヨ)第 4140 号　仮 処 分
命令申立事件について，当裁判所は，債権者の申立てを相当と認め，
債権者に 金30万円
の担保を立てさせて，次のとおり決定する。

主　　文

別紙主文目録記載のとおり

平成 26 年 2 月 4 日

東京地方裁判所民事第9部

裁 判 官　福 島 政 幸

主文目録

債務者は、インターネット上で債務者が管理するウェブサイト「MAJOR MAK'S DIARY」並びにアカウント名「davidianglossary」及び「newcollegiate」において、別紙毀損表現目録記載の各「掲載ブログ名・掲載先URL」欄掲記のブログにおける各「記事内容」欄に引用された下線部の文言を掲載してはならない。

当事者目録

〒１０１－００４６　東京都千代田区神田多町２丁目５番地

債　　権　　者　株式会社クリスチャントゥデイ

上記代表者代表取締役　矢　田　喬　大

〒１００－８２２２　東京都千代田区丸の内２丁目６番１号

丸の内パークビルディング

森・濱田松本法律事務所（送達場所）

電　話　０３－６２６６－８９１４（小林直通）

ＦＡＸ　０３－６２６６－８８１４（小林直通）

上記債権者代理人弁護士　角　田　　望

同　小　林　雄　介

同　辰　野　嘉　則

同　飯　田　耕　一　郎

〒２３２－００５３　横浜市南区井土ヶ谷下町２８番地３３

救世軍横浜小隊

債　　務　　者　山　谷　　真

〒１０２－００８３　東京都千代田区麹町４丁目７番地

麹町パークサイドビル３階

リンク総合法律事務所（送達先）

電　話　０３－３５１５－６６８１

ＦＡＸ　０３－３５１５－６６８２

上記債務者代理人弁護士　紀　藤　正　樹

同　山　口　貴　士

毀損表現目録

※　「■」は、前訴判決の後、債務者が削除し黒塗りになったものである。
※　各記事の下線及びその直後の［毀損表現○番］は債権者が付したものである。

記事番号	記事日時・タイトル	2007年1月7日 ■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■
	掲載ブログ名・掲載先 URL	MAJOR MAK'S DIARY http://majormak.blogspot.jp/2007/01/blog-post_07.html
1	記事内容	以前このブログに書いた「クリスチャントゥデイ疑惑」に関する記事が、当の株式会社クリスチャントゥデイからの告訴の威嚇により削除に追い込まれて、早くも二ヶ月以上が経過した。 【中略】 ９．被害者家族からの電話相談を受ける ACM のこともクリスチャントゥデイのことも、忘れかけていた昨年の９月頃のこと、ある女性から ACM に関する相談の電話を受けた。ここから、事態は大きく転回して行くことになるのである。その女性の息子さんは、大学在学中に ACM の勧誘を受けて入信し、それ以降、家族に対して頻繁に嘘をつくようになったという。大学卒業後、ベレコムという IT 会社に就職すると告げたのだが、自分の住所を教えようとしない。不審に思った両親が、松濤ビルに住所があるベレコムの事務所を訪ねてみると、「クリスチャントゥデイ」の看板が出ていたという。息子さんとの連絡は途絶えがちになり、心配していると、ある日、消費者金融五社から借金返済の督促状が実家に届いた。驚愕して息子さんに問いただすと、最初は「ACM の上部団体に上納した」と説明していたが、後に「困っている女性に用立てた」などと、次々に言葉を変えた。御両親は「社会人なのだから、まず働いて借金を返しなさい」と強く意見し、勧めに従った息子さんは、御両親が三ヶ月分だけ家賃を用立てたアパートに住みながら、人材派遣会社で働き、借金返済を始めた。ところが一年後、不動産会社から家賃支払いの督促状が実家に届いた。急いでアパートを訪ねてみると、家財道具を一切合切残したまま、息子さんの姿は消えていた。大家が荷物を全部引き取って退去するよう要求するので、御両親はそれに応じて部屋を開け、未納家賃の一部を立て替え、滞納された光熱水費や電話代も支払った。そうして、クリスチャントゥデイを訪ね、息子がどこにいるか知らないかと聞くと、「知らない、わからない」という。その足で、ベレコムを訪ねると、やはり、「知らない、わからない」という。アパートから引き取った荷物の中からは、大量の聖書講義ノートと、オリヴェット大学の入学通知書があり、ノートには「聖ダビデ牧師様」という言葉が出て来るという。この相談を受けて、小生は「これはおそらくカルト団体である可能性が高い」と判断せざるを得なかった。［毀損表現１番］そこで、お母様から聞いた、小生にとっての新たな注目キーワードである「ベレコム」と「オリヴェット大学」を手がかりに、ネット検索による調査を開始すると、あるひとつの像がそこに開けて来たのである 【中略】 １５．「たいへんなことになる」と言われ、大変なことに

この二つの記事をブログに掲載したら、クリスチャントゥデイ代表の高柳泉氏から電話がかかって来た。2006年10月28日（土）午後1時頃のことである。内容は、「ブログの記事を削除しなさい。さもなければ、大変なことになる」というものであった。これに対して小生は、「クリスチャントゥデイは、堂々とキリスト教言論の前に姿を現して、疑惑に答えるべきではなかろうか」との問いを投げかけた。その翌日。10月29日（日）午後11時頃に、西日本方面での伝道キャンペーンから帰宅した太田晴久少佐が、小隊（教会）の前を通りかかると、窓のすべてに目張りをした自動車が、小隊側に横付けして、しかも、反対車線側に駐車しているのを発見した。いずれ移動するであろうと見張っていたが、一向に動く気配がない。そこで太田少佐が「不審車両」を警察に通報すると、10分弱で警官二名が到着し、車に乗っていた若者二名に職務質問を行い、任意で車の中をすべて改めた。車内から「問題性」のあるものは発見されなかったので、警官らは若者二名の身元を免許証で確認すると共に、ただちに退去せよ、と促し、「不審車両」は去って行ったのである。それから数日後の11月1日（水）未明より、中国の複数のサーバーを踏み台にして、大量のスパムメールが救世軍本営のサーバーに送りつけられ、この「サーバーアタック」によって、サーバーが機能停止に近い状態に追い込まれた。これに加え、小隊（教会）スタッフが言うところによれば、この何日か、小隊（教会）の近辺で黒いスーツを来た不審な若者らを頻繁に目撃し、さらに、自転車がパンクする出来事が起きている、というのである。こうした事態によって、スタッフたちは「パニック」を起こしてしまった。<u>小生がクリスチャントゥデイのカルト疑惑をブログで提示していることを、スタッフたちは、少し前から知っていたからである。</u>**[毀損表現２番]** もちろん、不審車両にせよ、サーバー攻撃にせよ、不審人物にせよ、自転車のパンクにせよ、おかしな出来事が連続で起きているのは事実にしても、それらをクリスチャントゥデイやACMと結びつける「科学的証拠」は、一切存在しない。だが、高柳氏の「大変なことになる」という電話のメッセージが、これら一連の出来事と「心理的」に結びつけられて、スタッフたちのパニックを引き起こしたのであった。この心理的因果関係は、科学的因果関係とは別の次元で、ひとつの否定し得ない事実であったのは、確かなことである。

【中略】

１６．２ちゃんねるにスレッドが立つ

この頃、世界最大の匿名掲示板「２ちゃんねる」の「心と宗教」の中に、「Christian Today と救世軍山谷少佐のガチンコ対決」と題するスレッドが、ハンドルネーム「地引網」氏によって立てられた。義勇軍ブログ「Mystery of This Age」の作者を自称する「Mystery」こと「２３」氏や、明らかに小生の意を汲んでいると思われる「情報省」氏。クリスチャントゥデイ側の意を汲んでいると思われる人物たち。そこに、中立の立場の者。疑惑提示派。疑惑否定派。その他、多数の者が入り乱れて、実に11000以上もの書き込みによる議論の応酬が展開された。いまや、そのすべてを読み通すことは、だれにも不可能であろう。その応酬の中で、「疑惑提示派」からは、次のような論点が示された。

（１）張在亨氏の統一教会前歴（大学原理研学舎長、大学巡回伝道団団長、国際基督者学生連合事務局長、鮮文大学設立準備室員、

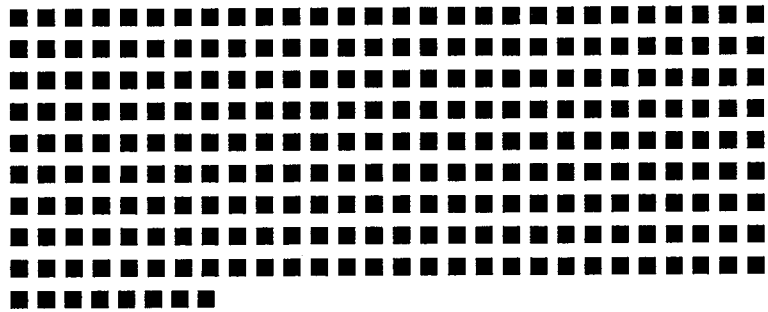
		鮮文大学教授）について。 （２）張氏の統一教会前歴の証拠の核心をなす『統一世界』1977年７月号の張氏執筆記事の真偽ついて。 （３）メソジスト系聖化学院が統一教会に買収されて成和学院（成和神学校、成和大学、鮮文大学）となった経緯について。 （４）鮮文大学設立の資料の核心である『鮮文大学30年史』の真偽について。 （５）張氏が鮮文大学在職中の1992年に設立した「ハンビット大学宣教会」について。 （６）ハンビット大学宣教会の異端嫌疑を記事化した『月刊現代宗教』1997年７月８月号の記事の真偽について。 （７）中国のキリスト教サイト『房角石』が異端として告発している「中国イエス青年会」について。 （８）「ダビデ張在亨を来臨のキリストと教え込む異端の教義」をめぐる、「リックロス・カルト教育フォーラム」の脱会者証言とｋ氏資料の該当箇所について。 （９）『房角石』『月刊現代宗教』『リックロス・カルト教育フォーラム』と日本の脱会者証言に基づく、使役の「無賃金労働」に近い実態について。 （１０）オリヴェット大学の前身であるSCCSC（サザンクロス神学校海外キャンパス・ソウル校）の不透明さについて。 （１１）ｋ氏資料にもとづく「ノアの箱舟」としての「兄弟部屋での集団生活」と「関連企業での使役」について。 （１２）日本の脱会者証言に基づく、「ノルマ献金」と「消費者金融からの借り入れ」について。 これらの論点を提示する根拠となる「資料」を、小生がブログ上で公開したり、あるいは有志が義勇軍サイトで公開したりすることは、状況的に見て困難であった。というのは、二度に及ぶサーバー攻撃の直後で、いまだ防備体制の強化が整っていなかったゆえ、第三次サーバー攻撃は、なんとしても回避しなければならなかったからである。このため、小生は、「資料」を、ソーシャルネットワーキングサイト「mixi」内の非公開制・登録制コミュニティー「Christian Today カルト疑惑」にすべて移行し、篭城の体制を整えた。**[毀損表現３番]** このコミュニティーには現在、十人ほどが参加して、情報の交換や議論を深め合っている。「２ちゃんねる」での議論は熾烈を極め、スレッドNo.12においては、ついに、クリスチャントゥデイ側に立つとおぼしき複数の人物たちが、救世軍士官や救世軍職員が「児童への性的虐待」などの刑法犯として裁かれた不祥事を、世界各地の新聞ソースから拾い集めて来て、２ちゃんねる上に貼付けるという「暴露戦術」に打って出た。**[毀損表現４番]** これにより、もはや議論を続けても、永遠の「泥仕合」から抜け出ることはできないと判断した「２３」氏や「情報省」氏は、２ちゃんねるからの一方的な撤退を宣言した。しかし、クリスチャントゥデイ側に加担すると見られる人物による救世軍攻撃が、２ちゃんねる上で収束する気配は、今のところまだ見られていない。**[毀損表現５番]** **【以下略】**
記事番号	記事日時・タイトル	2007年３月11日 ダイアリー
	掲載ブログ名・掲載先 URL	MAJOR MAK'S DIARY http://majormak.blogspot.jp/2007/03/blog-post_11.html
2	記事内容	<朝> 朝食（コーヒー、トースト、ゆで卵）

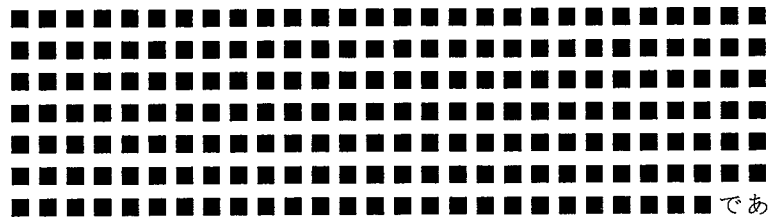
		『朝日新聞』朝刊閲読 洗いもの 【中略】 <メモランダム> 昨年11月、小生がブログのクリスチャントゥデイ関連記事全削除に追い込まれた際に、小生が保持していたデータを流用してブログ界に第二戦線を切り開いて下さった「ボランティア」（義勇軍）がいた。 以下は、『クリスチャントゥデイ問題資料』に掲載した、それに関するくだりである。 【中略】 「たいへんなことになる」と言われ、大変なことに この二つの記事をブログに掲載したら、クリスチャントゥデイ代表の高柳泉氏から電話がかかって来た。2006年10月28日（土）午後1時頃のことである。内容は、「ブログの記事を削除しなさい。さもなければ、大変なことになる」というものであった。これに対して小生は、「クリスチャントゥデイは、堂々とキリスト教言論の前に姿を現して、疑惑に答えるべきではなかろうか」との問いを投げかけた。その翌日。10月29日（日）午後11時頃に、西日本方面での伝道キャンペーンから帰宅した太田晴久少佐が、小隊（教会）の前を通りかかると、窓のすべてに目張りをした自動車が、小隊側に横付けして、しかも、反対車線側に駐車しているのを発見した。いずれ移動するであろうと見張っていたが、一向に動く気配がない。そこで太田少佐が「不審車両」を警察に通報すると、10分弱で警官二名が到着し、車に乗っていた若者二名に職務質問を行い、任意で車の中をすべて改めた。車内から「問題性」のあるものは発見されなかったので、警官らは若者二名の身元を免許証で確認すると共に、ただちに退去せよ、と促し、「不審車両」は去って行ったのである。それから数日後の11月1日（水）未明より、中国の複数のサーバーを踏み台にして、大量のスパムメールが救世軍本営のサーバーに送りつけられ、この「サーバーアタック」によって、サーバーが機能停止に近い状態に追い込まれた。これに加え、小隊（教会）スタッフが言うところによれば、この何日か、小隊（教会）の近辺で黒いスーツを来た不審な若者らを頻繁に目撃し、さらに、自転車がパンクする出来事が起きている、というのである。こうした事態によって、スタッフたちは「パニック」を起こしてしまった。小生がクリスチャントゥデイのカルト疑惑をブログで提示していることを、スタッフたちは、少し前から知っていたからである。［毀損表現6番］もちろん、不審車両にせよ、サーバー攻撃にせよ、不審人物にせよ、自転車のパンクにせよ、おかしな出来事が連続で起きているのは事実にしても、それらをクリスチャントゥデイやACMと結びつける「科学的証拠」は、一切存在しない。だが、高柳氏の「大変なことになる」という電話のメッセージが、これら一連の出来事と「心理的」に結びつけられて、スタッフたちのパニックを引き起こしたのであった。この心理的因果関係は、科学的因果関係とは別の次元で、ひとつの否定し得ない事実であったのは、確かなことである。 【以下略】

記事番号	記事日時・タイトル	2007年5月16日 ■■■■■■■■■■■■■■
	掲載ブログ名・掲載先URL	MAJOR MAK'S DIARY http://majormak.blogspot.jp/2007/05/blog-post_16.html
3	記事内容	以下に引用するのは、小生が2007年5月15日（火）の午前中に東京簡易裁判所の民事第6室2係の担当書記官を訪問して直接手渡した「異見書」及び添付文書である。なお、引用文中、抹消線によって訂正されている箇所は、東京地裁での第一回口頭弁論の際に訂正する予定にしている。 -- 異 見 書 2007年（平成19年）5月15日 東京簡易裁判所御中 東京都杉並区和田2-21-39 救世軍少佐　山谷　真 株式会社クリスチャントゥデイが平成19年（2007年）4月19日9日に東京簡易裁判所に対して申し立てた「損害賠償請求調停申立事件」（事件番号：平成19年（ノ）第324号）について、当方は、以下の通り異議を申し立てるものである。 異議の要点 1．当方のブログの記事によるカルト疑惑~~追求~~追及は、公益性の観点に照らして、名誉毀損にはあたらない。［毀損表現7番］ 2．不審事案をブログに掲載したのは、正当な防衛手段であり、かつ、名誉毀損にはあたらない。 3．申立人は匿名ブログ及び匿名掲示板によって当方への誹謗中傷を繰り返しており、そもそも申立人が当方に対して損害賠償すべきである。 4．申立人による損害賠償金請求額の算出に、過誤がある。 5．当方よりすでに和解案を提示している以上、東京簡易裁判所での民事調停には合理的必要性がない。 ■■■■■ 1．当方のブログの記事によるカルト疑惑~~追求~~追及は、公益性の観点に照らして、名誉毀損にはあたらない。［毀損表現8番］ 当方のブログの記事は、信教の自由を構成する重要不可欠の要素である「宗教的批判」の自由に基づくものである。 大韓民国大法院では「異端を批判する自由は、言論の批判の自由

よりも、保障されなければならない」との判例が出されている。（大韓民国大法院 1996年9月6日宣告 判決96 ダ 19246判決）

申立人に対し、最初の宗教的批判を行ったのは韓国キリスト教界であり、続いて行ったのは、その報道を受けた日本キリスト教界だったのであって、そこにて批判された疑惑は、今日なお解消されていない状態にある。当方はこれらを継承する立場で、新資料を加味して「宗教的批判」を進めたのであり、カルト疑惑の~~追求~~追及は、これまでの日韓両キリスト教界の公益擁護の観点に照らして適うものであると考える。［毀損表現９番］

申立人はこれまで自紙社説にて「宗教的批判」の自由をうたってきたのだから、今回当方のブログを提訴の威嚇をもって削除させようと試みたのは自己矛盾であり、申立人は本来、言論の公器たる自紙において堂々と論駁記事を掲載することで、疑惑の解消に努めるべきであった。

【中略】

当方は、クリスチャントゥデイ元編集長の両親からカルト相談を受けたことをきっかけに、内部資料を入手し、脱会者複数と接触を持ち、新たな疑惑が存在することを確認し、カルト専門家を含む関係各方面に通知すると共に、日本キリスト教界の公益を擁護するために、ブログの記事によって疑惑の提示を行って来た。

であり、申立人をめぐる日韓両キリスト教界でのこれまでの対応の経緯を鑑みて、当方のブログの記事によるカルト疑惑~~追求~~追及は、公益性の観点に照らし、名誉毀損にはあたらないと考える。［毀損表現１０番］

なお、当方が、如何なる要件をもってカルトと考えるかについては、当方が 1997年に開設したウェブサイト「キャプテン・マクのページ」に 2000年5月から掲載している「カルトについてのノート」によって、公衆に対し広く明示されている（http://www.geocities.jp/captain_makoto_yamaya/cultcaution.html）。
すなわち、当方が理解するところのカルトとは、以下のものである。

【中略】

甲３号証

高柳山谷会談　分析と評価（第２版）

作成者　救世軍少佐　山谷 真
makoto.yamaya@salvationarmy.or.jp
http://majormak.blogspot.com

はじめに

世界各国で活動しているオンラインのキリスト教メディア企業「クリスチャントゥデイ」(http://christiantoday.co.jp)及びその関連諸団体が、元統一教会中枢メンバー張在亨氏を「来臨のキリスト」と信奉するカルト団体ではないか、との疑惑を小生がブログで提示して以来、ネット上で激論が戦わされて来た。その発端と疑惑の全容について、『クリスチャントゥデイ問題資料』にまとめて掲載している。
(http://www.salvos.com/makotoyamaya/ct_resource.pdf)［毀損表現１１番］

【中略】

１．会談の目的とするところ

高柳泉氏は、小生がブログで提示した「クリスチャントゥデイ疑惑」を全面否定する立場から、過去再三再四ブログの記事削除を要求して来た。また、ネット各所の「議論」を中止するよう求めて来た。加えて、小生のブログに「クリスチャントゥデイのカルト疑惑は解除された」との一文を掲載するよう、求めて来た。

高柳氏が太田少佐を仲介人に立てて開催を求めた「高柳山谷会談」は、小生が提示した疑惑に対し、納得の行く合理的説明を高柳氏が与えることにより、小生が抱く疑惑を解き、もって小生のブログに「クリスチャントゥデイのカルト疑惑は解除された」との一文を掲載させること、かつ、ブログの該当記事を削除させることを目的としている。
小生は、上記の趣旨を受け入れ、会談が公正に行われることを保障するため、会談に臨むにあたり、以下の方針を定めた。すなわち

【中略】

８．評価に基づく判断

以上述べた評価に基づき、小生は次のように判断を行うものである。

「クリスチャントゥデイ及びその関連諸団体の異端嫌疑及びカルト疑惑は解消されなかった」［毀損表現１２番］

【中略】

甲４号証

和 解 案

東京都中央区日本橋 2-1-21
第２東洋ビル３階
株式会社クリスチャントゥデイ代理人
弁護士　石上麟太郎殿

【中略】

第８項　和解契約書（案）

救世軍少佐山谷真（以下「甲」という）と株式会社クリスチャントウゥデイ（以下「乙」という）は、甲乙間において生じた下記の争いにつき、以下のとおり和解し、争いを停止することに合意した。

（争いの事実）

１．　甲は乙に関して以下の主張を行っている。

（１）　乙は「アポストロス・キャンパス・ミニストリー」・「アポストロス・ミッション」・「イエス青年会」・「ジュビリー・ミッション」・「オリヴェット神学校」・「クロスマップ」・「ブレスキャスト」・「日本キリスト教長老教会」等々と信条的・神学的・人的・資金的な面において有機的な一体関係にあると思われること

（２）　乙の創立者であるダビデ張在亨牧師が 1997 年まで統一教会において統一神学を教授するなど統一教会内にて中心的な役割を果たしてきたこと

（３）　ダビデ張在亨牧師が 1997 年以降に悔い改めて、正統的なキリスト教徒となった記録が見出せないこと

（４）　ダビデ張在亨牧師が上記の悔い改めの実として反統一教会のメッセージ・行動の記録が確認できないこと

（５）　<u>乙の関連団体の一つである東京ソフィア教会における講義録から乙のカルト性･異端性が指摘できること</u> **<u>[毀損表現１３番]</u>**

（６）　上記（５）の「東京ソフィア教会における講義録」は所有者の両親からコピーの提供を受け、その許諾を得て入手した経緯までを公開したものであること

２．　乙は甲に対して以下の主張を行っている。

（１）　「東京ソフィア教会における講義録」及びその入手経緯の公開は所有者の許諾を得なかったものであり違法性があること

（２）　上記（１）に関して乙は甲に謝罪を求めること

（３）　乙は甲に対して告訴をする準備があること

（４）　乙は正統的なキリスト教信仰に基づく団体であり、乙が異端･カルトではないかとの甲の疑問は全く不適切であること

（和解方法）

３．　乙は甲の誤解を解くために以下のことを行う

（１）　乙は「アポストロス・キャンパス・ミニストリー」・「アポストロス・ミッション」・「イエス青年会」・「ジュビリー・ミッション」・「オリヴェット神学校」・「クロスマップ」・「ブレスキャスト」・「日本キリスト教長老教会」等々と信条的・神学的・人的・資金的な面において有機的な一体関係にあると思われることを認める。

		（2）　上記１.の（2）から（4）に関しては平成20年6月15日までに反論に必要な資料を乙のホームページ上に詳細に公開する。 （3）　その上で、ダビデ張在亨牧師は来臨のキリストではないことを同じく乙のホームページ上に掲示する。 （4）　乙は甲に対して無礼な言動があったことを謝罪する。 ４．　甲は上記を確認した後に速やかに以下のことを行う （１）　甲のブログに「乙のカルト疑惑は氷解した」と掲示する （甲･乙がそれぞれの責務を果たせなかった場合の措置） ５．　甲は乙のカルト疑惑等についてブログを含む公開の場において~~追来~~追及を行う［毀損表現１４番］ ６．　乙は甲を違約したことを同様にブログを含む公開の場にて言及できる 【以下略】
記事番号	記事日時･タイトル	2007年7月17日 クリスチャントゥデイ問題を最終総括する
	掲載ブログ名･掲載先URL	MAJOR MAK'S DIARY http://majormak.blogspot.jp/2007/07/blog-post_6607.html
4	記事内容	昨年2月16日に「アポストロス・キャンパス・ミニストリーという団体」と題する記事を当ブログに上梓したことから始まった■■この「感覚」を先方が持っているのだとしたら、事実上、戦は決している。それで、最終総括をすることとした次第。 【中略】 上記のような「反応」は、通常のキリスト教メディアからは到底考えられないことであり、■■ これらの「反応」がすべて、クリスチャントゥデイ関係者及び張氏の弟子等によって行われたものであるとの前提に立つならば、小生の心証に照らして、クリスチャントゥデイの異端カルト疑惑は確実に＜黒＞と断定することになる。［毀損表現１５番］ よって、小生は、全世界のキリスト者に対し、張在亨氏の関連団体、わけても、クリスチャントゥデイについて、直ちに最大限の警戒態勢を取るよう、警鐘を鳴らすものである。

<table>
<tr><td rowspan="2">記事番号</td><td>記事日時・タイトル</td><td>2007年8月1日
神学論争インデックス</td></tr>
<tr><td>掲載ブログ名・掲載先URL</td><td>MAJOR MAK'S DIARY
http://majormak.blogspot.jp/2007/05/blog-post_2093.html</td></tr>
<tr><td>5</td><td>記事内容</td><td>「クリスチャントゥデイ対山谷裁判」東京地裁判決について日本のキリスト教メディア『クリスチャン新聞』2013年12月8日号が報道しました。

【中略】

クリスチャントゥデイ問題とは？

統一教会（世界基督教統一神霊協会）核心メンバーであった張在亨氏（学舎長、巡回伝道団団長、ICSA事務局長、鮮文大学教授）が、自分自身を「来臨のキリスト」として若者たちに教え込み、張氏が設立した関連団体（ACM、イエス青年会、EAPC等）と関連企業（クリスチャントゥデイ、クリスチャンポスト、ジュビリーミッション等）に献身させて、［毀損表現１６番］無償労働をさせている上、そうした実態を糊塗しつつ、世界福音同盟（WEA）への浸透を企て、成功を収めつつある、という疑惑です。

被害者家族から疑惑の証拠となる資料の提供を受けた山谷が、2006年9月からブログで追及を始め、クリスチャントゥデイから1000万円の損害賠償請求の民事調停を経て、2008年に210万円の損害賠償請求の民事裁判を提訴され、2013年11月に判決しました。このことが、『クリスチャン新聞』『キリスト新聞』『リバイバル新聞』『ニュースミッション』『ゴッドピープル』『アーメンニュース』『ニュースエンジョイ』『月刊現代宗教』『ニュースパワー』『エキュメニカルプレス』『基督教論壇報』『基督新聞社』『荒野の声』『香港経済日報』『時代論壇』『クリスチャントゥデイUS』「韓国CBSテレビ」等の内外メディアで取り上げられました。

【中略】

■ SNSミクシィ・非公開登録制コミュ「Christian Today カルト疑惑」［毀損表現１７番］

ミクシィ・コミュにつきましては、登録申請を頂戴しましたら、次の基準で簡単な審査をさせて頂きます。（１）教会教職者、神学生、信徒のいずれかであって、（２）コミュメンバーからの推薦・紹介があること。あるいは、（３）コミュメンバーの誰かと直接間接の面識があること。あるいは、（４）所属教会と住所など個人情報の一部を開示すること。まれに、御期待に添えない場合がありますことを、あらかじめご了承ください。

【以下略】</td></tr>
</table>

記事番号	記事日時・タイトル	2008年1月18日 ■■■■■■
	掲載ブログ名・掲載先 URL	MAJOR MAK'S DIARY http://majormak.blogspot.jp/2008/01/blog-post_18.html
6	記事内容	本日午前 11 時頃、株式会社クリスチャントゥデイの代表取締役である高柳泉氏が、救世軍本営に太田晴久少佐を訪れ、面談した由。太田少佐は「私人」の立場を銘記した上で、高柳氏から約 3 時間に渡る話を聞いた。夕刻、太田少佐から報告を頂戴した。 【中略】 Makoto Yamaya さんのコメント… 以下、太田少佐と高柳氏とのやりとりの要約です。 （1）太田少佐が「あなたとの交渉は、昨年あなたが山谷を裁判所に訴えた時点で、あなたから『いろいろお世話になりました』と最後の挨拶をもらって、それで完全に終わってしまったはずである。その後、あなたからは連絡はないし、安原氏との交渉も、不誠実な対応のために、終わってしまった。それから一年もたって、いったいわたしにどういう話しがあるのか？」と切り出すと、高柳氏は「とにかく、山谷の英語のブログを削除してほしい」と繰り返したそうです。 （2）対して太田少佐が「わたしはもう、山谷側の仲介人ではないから、交渉の仲介役を果たすことはできない。わたしに話しをしても無駄である」と答えると、高柳氏は「仲介人としてではなく、山谷の上司としての立場に対して、お願いしています」と述べたとのこと。 （3）さらに太田少佐が「石上弁護士には、今も代理人をお願いしているのか？」と質問すると、高柳氏は、これには返答せず。しかし、「わたしたちは、最初から裁判するつもりなどありませんでした」と述べたとのこと。それに対して、太田少佐が「じゃあ、今後一切裁判はしないということなのか。それでは、山谷が英文ブログを削除しなかった場合は、どうするのか？」と問いただすと、高柳氏は「裁判に訴えるかもしれない」と返答した由。 （4）また、太田少佐が「昨年の高柳山谷会談で財務諸表を出すと言ったが、あれはどうなったのか？」と問いかけると、高柳氏は「あの場では出すと答えたが、財務諸表にいろいろと不備があり、また、賃金も最低賃金に達しないものであり、それを開示すると、いろいろと突っ込まれることになるので、出すことが出来なかった。しかし、財務諸表を作っていないわけではない」と弁明した由。 （5）その後、高柳氏は、「自分はキリストのため、宣教のために命を捧げる覚悟ができている。自分はどうなってもよい」というような内容を、自分自身に対して言い聞かせるようにして、しかも、説教調で、喋り始めたとのこと。このあたりから、高柳氏の様子が尋常ではなくなり、涙を流し、延々と語り続けた、ということです。［毀損表現１８番］

<table>
<tr><td rowspan="2">記事番号</td><td>記事日時・タイトル</td><td>ー
高柳山谷会談</td></tr>
<tr><td>掲載ブログ名・掲載先 URL</td><td>ダビデアン用語集
http://davidianglossary.blogspot.jp/2007/11/blog-post_9508.html</td></tr>
<tr><td>7</td><td>記事内容</td><td>株式会社クリスチャントゥデイ代表取締役の高柳泉と、ダビデアン異端カルト疑惑の追及者である山谷少佐が 2007 年 1 月 25 日に行った会談。［毀損表現１９番］双方の同席者と仲介人合わせて9名が出席した。この会談の結果、山谷少佐は「疑惑は晴れなかった」との結論を示した。

2007 年元旦からブログでのダビデアン異端カルト疑惑の追及を再開した山谷少佐に対して、ダビデアンは「ブログの削除か裁判か」の態度決定を迫ったが、山谷少佐が削除を拒否したため、ダビデアンは仲介人である太田少佐を通じて「高柳山谷会談」の開催を要求した。［毀損表現２０番］出席者は以下の通りである。

【以下略】</td></tr>
<tr><td rowspan="2">記事番号</td><td>記事日時・タイトル</td><td>ー
幹事専用サイト</td></tr>
<tr><td>掲載ブログ名・掲載先 URL</td><td>ダビデアン用語集
http://davidianglossary.blogspot.jp/2007/11/blog-post_15.html</td></tr>
<tr><td>8</td><td>記事内容</td><td>全世界のダビデアンを結ぶイントラネット・システム。幹事以上のメンバーに配布されるアカウントとパスワードでしか入室できない。幹事の立ち会いの下であれば、幹事以下のメンバーが閲覧することが許される。

ダビデアンという異端カルトの特徴は、インターネット上に構築されたグローバルなイントラネットを根幹に形成されている点にある。外部に対しては ACM やイエス青年会や EAPC やクリスチャントゥデイやベレコムなど、諸団体・諸企業に分かれて運営されているように「見える」が、内部、つまり、イントラネットのシステム内では、諸団体・諸企業は完全にシームレスに統一された「共同体」である。［毀損表現２１番］

【以下略】</td></tr>
</table>

記事番号	記事日時・タイトル	ー 昆布
	掲載ブログ名・掲載先 URL	ダビデアン用語集 http://davidianglossary.blogspot.jp/2007/11/blog-post_8022.html
9	記事内容	２ちゃんねるで、ダビデアンの意向を受けて、救世軍を誹謗中傷する書き込みを行っているコテハン（固定ハンドル）。 ダビデアンの異端カルト追及を行っている山谷少佐の口を封じるために、ダビデアンの委託を受けて、巨大掲示板「２ちゃんねる」で、山谷少佐の所属教団「救世軍」を誹謗中傷する書き込みを行っているコテハン（固定ハンドル）。会社法についての知識の欠如をコテハン「暇人」に暴露され、一度は謝罪して、書き込みを止めたが、コテハン「サンチャゴ」にマイミク（ソーシャルネットワークサービス・ミクシィの友人登録）を切られたことから逆上し、ありとあらゆる方法を使って山谷少佐と救世軍を誹謗中傷する書き込みを続けている。昆布の活動がダビデアンの要請と委託を受けて行われていることは明らかである。［毀損表現２２番］山谷少佐は２ちゃんねる対策掲示板「にちゃんれす」で、反訴の際に昆布に求める立証責任を「反訴項目類聚」として列挙し、訴訟準備を進めている。昆布も、裁判になることを覚悟し、「裁判マダア？」の書き込みを繰り返している。昆布に対しては「救世軍を叩きたいならそれ専用のスレで叩け。スレ違いだ」との指摘が九十以上前を数えるスレから繰り返されて来ているが、全く聞く耳を持たない。このことから、単に目立ちたがり、騒ぎたいだけの幼稚な人格が、ダビデアンの意向に合致してしまった結果であるとの観測も一部でなされている。

記事番号	記事日時・タイトル	— CCK-J 総会長名文書
	掲載ブログ名・掲載先 URL	ダビデアン用語集 http://davidianglossary.blogspot.jp/2007/11/cck-j.html
１０	記事内容	在日韓国基督教総連合会（CCK-J）総会長が、CCK-J の「クリスチャントゥデイ対策決議」を山谷少佐の捏造と断定した文書のこと。受領人は日本キリスト教協議会（NCC）である。 CCK-J（在日韓国基督教総連合会）東日本地方会は 2007 年 2 月 13 日開催の実行委員会（会場・在日大韓 YMCA）に山谷少佐と根田祥一氏を招請して事情聴取した結果として「クリスチャントゥデイ対策決議」を行い、その内容を同年 2 月 14 日午前 0 時 38 分付にて教会連合機関、メディア、法曹関係者に回覧した。その内容が同年 2 月 22 日に山谷少佐のブログで報じられたため、慌てた■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■ ■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■ ■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■ ■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■ ■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■ ■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■ ■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■ ■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■ ■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■ ■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■ ■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■ ■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■ ■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■ ■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■ ■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■ ■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■ ■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■さらに、２ちゃんねるでクリスチャントゥデイ工作員と目される「クトゥファン」が同記事を引用して、誹謗中傷と名誉毀損を繰り返したので、**[毀損表現２３番]** 激怒した山谷少佐は「和解交渉のための予備的交渉は完全に崩壊した」と「和解の破綻」を宣言した。爾後、クトゥファンは「和解の破綻者」と呼ばれて、２ちゃんねるから姿を消すこととなる。現在、山谷少佐は、「CCK-J 総会長名訂正謝罪文書の提出が和解交渉再考のための絶対条件」との立場を堅持している。 【以下略】
記事番号	記事日時・タイトル	— 新入大学生のみなさんへ
	掲載ブログ名・掲載先 URL	新入大学生のみなさんへ：クリスチャントゥデイの真実 http://newcollegiate.blogspot.jp/2008/01/blog-post.html
１１	記事内容	クリスチャントゥデイの真実 ■■■■■■■■■ 【中略】 ２【クリスチャントゥデイを疑うキリスト教界】 ■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■ ■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■ ■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■

■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■
■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■
■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■
■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■
■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■
■

■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■
■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■
■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■
■■■ダビデ張の団体に対するカルト疑惑は、日本や中国、香港を初め、「クリスチャントゥデイ」が活動している各国で広まっています。［毀損表現２４番］しかし、創始者であるダビデ張が統一教会の運営ノウハウを熟知しているためか、なかなかその実態を明らかにしません。

日本にも、「クリスチャントゥデイ」に対する異端カルト疑惑を訴える人たちがいます。しかし、匿名のブログや匿名巨大掲示板「2ちゃんねる」で個人情報を晒されたり、不審者にまとわりつかれたりするなどの被害が起きています。［毀損表現２５番］「クリスチャントゥデイ」に対する嫌疑を公式に発表した在日韓国基督教総連合会（CCK-J）には、「クリスチャントゥデイ」韓国語版の社員が直接訪問して圧力をかけ、連日連夜の抗議の電話が殺到し、通常業務が妨げられる事態に追い込まれました。

【中略】

５【被害者を増やさないために】

教義や信者獲得の方法が統一教会に類似している点、若く有能な大学生が過酷な生活環境で酷使されている点、そのような非人道的な環境に疑問を持たせないために、マインドコントロールによって正義感やエリート意識を植えつけて活動させている点など、多くの問題を「クリスチャントゥデイ」を初めとするダビデ張関連団体は持っています。［毀損表現２６番］

さらに、「クリスチャントゥデイ」が著名な牧師や教会、団体の記事や原稿を掲載することによって、「クリスチャントゥデイ」が諸教会から認められた「健全なクリスチャン企業」であるとの誤った認識が広がることも懸念されます。

これ以上被害者を増やさないために、また誤解する人が増えないように、上記のような「クリスチャントゥデイ」を初めとするダビデ張関連団体ついての情報を周囲に伝えること、つまり「知るワクチン」を広める必要があると思われます。

【以下略】

これは正本である。

平成26年2月4日

東京地方裁判所民事第9部

裁判所書記官　今村亮子